

子育て生活に関する七つの考え方について、それぞれ相対する選択肢A・Bを設け、自分の気持ちに近いほうに○をしてもらった。

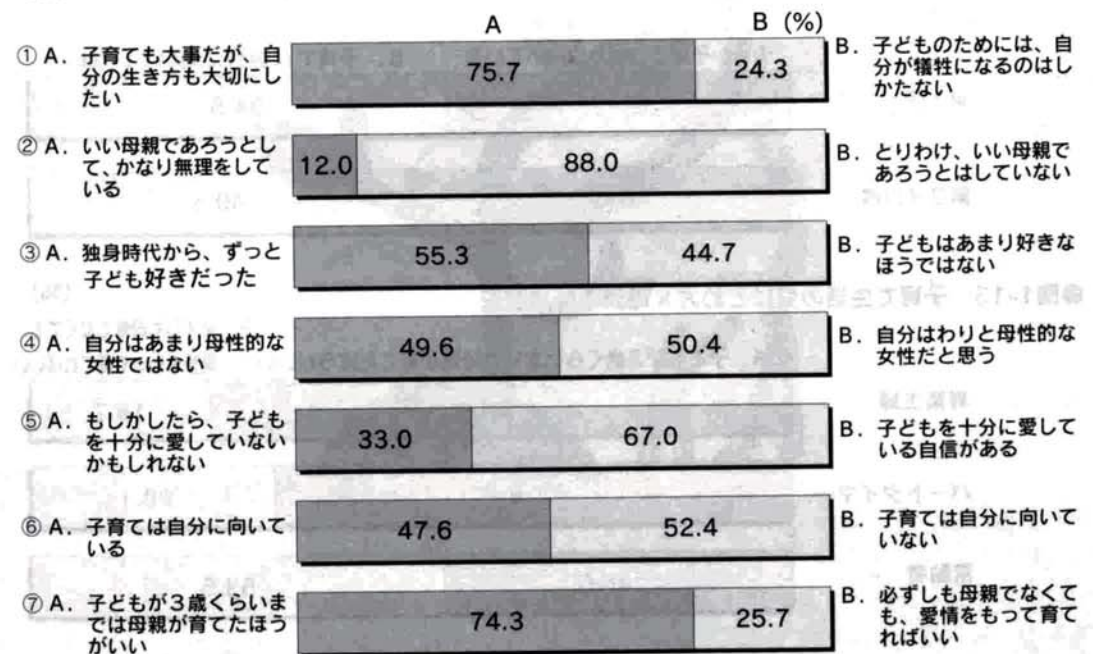
●とりわけ、いい母親であろうとはしていない一方で、3歳までは母親の手で(図1-11)

数値がA・B一方の選択肢にかたよった4項目をあげると、第1位「とりわけ、いい母親であろうとはしていない」88.0%、第2位「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」75.7%、第3位「子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうが良い」74.3%、第4位「子どもを十分に愛している自信がある」67.0%となる。自分に気負いすぎることなく、また自分の生き方も大切にしたいと思う人が圧倒的に多い一方で、3歳までは母親が育てたほうが良いと答えた人も多い。自分の生き方を考えるのは子どもが3歳を過ぎて園に通いだし、ある程度母親自

身の時間ができてからと考えている人が多いのだろう。また、A・Bの差が最も少なかったのは母性について聞いた項目で「自分はあまり母性的な女性ではない」49.6%、「自分はわりと母性的な女性だと思う」が50.4%とほぼ5割ずつに分かれていた。

全般的にみて、無理をしてよい母親になろうと考えるよりも、自分の人生を大切にしたいという傾向が強く、その傾向は第3章「現在力を入れている活動」に友人とのつきあいはじめ趣味やスポーツをあげ、子育てをする一方で、自分自身の楽しみや活躍の場をもっている母親が多いことにも表れていた。なお、「子育ては自分に向いている(年少児44.6%→小2生50.2%)と「子どもが3歳くらいまでは母親が育てたほうが良い」(年少児67.0%→小1生75.4%)の2項目は、学年の上昇とともに数値が高くなる傾向がみられた。

●図1-11 子育て生活の受けとめ方



● 第1子の母親は母性的でなく、子育てに向いていないと自己評価する傾向がある (図1-12)

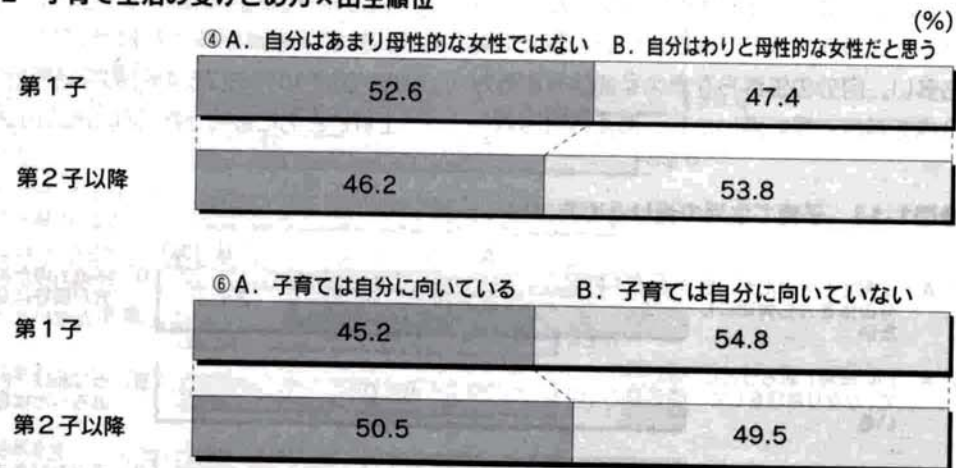
出生順位で差がみられたのは、「自分はわりと母性的な女性だと思う」(第1子47.4%<第2子以降53.8%、6.4%差)と、「子育ては自分に向いている」(第1子45.2%<第2子以降50.5%、5.3%差)だった。どちらも第2子以降のほうが第1子より高い数値を示している。初めての子育てを経験し、不安や失敗の多い育児生活の中で自信をもてなくなっている第1子の母親と、子育てをある程度経験し、その子なりの個性をふまえて育児に取り組める、第2子以降の母親との違いが、このような結果として表れていた。

● 母親の就業状況別の結果 (図1-13)

母親の就業状況別にはっきりと差が出

ているのは、「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」と「必ずしも母親でなくても、愛情をもって育てればいい」の項目で、どちらも就労時間が長くなるにつれて数値が高くなっていった。とくに「必ずしも母親でなくても、愛情をもって育てればいい」の項目は、専業主婦18.7%、パートタイマー28.1%、常勤者53.5%と差が明確だった。ただし、数値の上では差が出ていても、現在の選択に何も迷いがなければいい。本調査の「子育てを中心にした悩みや気がかり」の自由記述に散見されたが、3歳くらいまでは自分が育てたいと思って専業主婦をしている人の中にも、このままでいいのだろうかとの悩み、外で働きたいと思っている人もいるし、逆に常勤者でも、子どもの世話を母親以外の人にまかせて子どもに影響はないだろうかとの心配する人もいた。

● 図1-12 子育て生活の受けとめ方×出生順位



● 図1-13 子育て生活の受けとめ方×母親の就業状況

